

競争原理という真実

黒田インターナショナル

黒田 毅

競争原理は、格差と富の占有を創造する。世界市場の統一化は、それを永続させる。これはビジネスという原則と原理である。そのためその栄華は、その参加を高揚させる。企業は競争というルールのもと、戦争と同じ現実を有する。勝者は富を与えられ、敗者は市場を退場するのである。

これは製品と価格において世界市場の標準化は存在し、すべての消費者は、より優れた製品を選択する。

これら巨大な富と技術は、飛躍的な進歩とともに、その絶対性を有するのである。

他方においては、社会奉仕と活動における社会参加が存在する。企業倫理性という判断基準を有するのである。これらは自由貿易におけるスタンダードを形成する。

スーパーエリートたちは、その勝利者なのである。

これら他方においてはすべての人々が生活を共有する必要性を政治が有する。経済は必ず生活の手段である。また技術進歩は限りない豊かさを創造する。

市場原理は、その富というルールにおいて、供給を提供する。需要における製品の価格は、その社会における現実を与える。

競争はヒエラルキーを形成する。これは教育基盤を有するエリートと時代参加を得ない社会的弱者において理解できる。

これら富の独占は、他方において最下層における道徳的退廃と対比する。これら栄華という憧憬は、一切の現実を支配するのである。

これらは政治が、すべての人々への責任という自己の義務を明確にし、生活の提供と未来への参加を与えなくてはならない。